

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770600090
法人名	社会福祉法人志度玉浦園
事業所名	グループホーム志度玉浦園
所在地	香川県さぬき市志度1610番地1 (電話) 087-894-5868

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年12月12日	評価決定日	平成20年2月12日

## 【情報提供票より】(19年11月14日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年10月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤	8人、非常勤 人、常勤換算 8人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 4階建ての2階部分
------	-------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円	その他の経費(月額)	15,000円+実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 890円			

### (4) 利用者の概要(11月19日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	77歳	最高	93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡病院、ハロー歯科クリニック
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームの基本理念は、利用者本位の介護、清潔・親切・笑顔の介護、利用者の自立に向けて、利用者・職員が毎日一緒に、ゆったりとした気持ちで利用者支援し、健康・医療・安全面にも不安がなく、家族の安心感がうかがえる。日々、足腰が弱っていく利用者が増える中で、特に、怪我・骨折を予防するために、広いフロアを活かして、食後に歩行運動を全員で楽しみながら実施している。また、食事は各自の好みの食器を使用して、職員と一緒に明るい雰囲気の中で味わう等、全ての面で自立に力点をおいた支援がうかがえる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>玄関の施錠は、入り口にセンサーつきチャイムを取り付け、改善工夫がうかがえる。地域の連携については、地域の行事に積極的に参加したり、ホームに招待して理解を得るなど、取り組んでいるが、ホームが民家から離れているため、今後も引き続き、積極的な働きかけに期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で取り組み、問題意識が深まっている。また、今後の自覚が芽生え、自己評価で改善策が出なくても、多くのメリットがうかがえる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進委員のメンバーは、地元代表・民生委員・老人会代表・地区代表・利用者・家族代表・地域包括支援センター等で構成されているが、今年度は開催されていないので、早い機会の開催と活躍に期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見・苦情・不安への対応・運営への反映は、創設以来、家族の訪問時に伺い、忌憚のない意見を聞くことができている。今後は「苦情箱」を設置する等、直接に言い難いことが投函できる工夫が望まれる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣地域がホームと離れているため日常生活での連携が困難であるが、多くの地域行事への参加やホームの行事に招待する等、可能な限り、交流を工夫し、実施していることがうかがえる。更なる近隣地域との積極的な働きかけを期待したい。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者本位の介護、親切・清潔・笑顔の介護、利用者の自立支援とホーム独自の理念に向け、管理者・職員の努力がうかがえる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りや定期的な話し合いなど、理念の実践に向けた日々の取り組み姿勢がうかがえる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事への参加や、ふれあい祭り・夏祭りなどのホーム行事に招待して、交流の輪を広げる工夫に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み、また、外部評価を受けることによって、職員の意識の向上や質の向上、確保につなげ、今後の運営面に活かしたい意気がうかがえる。	○	今後は、自己評価の実施と外部評価の結果を参考に、より一層の意識の向上を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員のメンバーは、地元代表・民生委員・老人会代表・地区代表・利用者・家族代表・地域包括支援センター等で構成されているが、今年度は開催されていない。	○	運営推進会議は、事業所の取り組みや具体的な改善課題について話し合い、地域の理解、協力を得るための貴重な機会である。早期に開催できるよう今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営上の問題について、市町に問い合わせで解決している。市町との関係づくりについて、今後も積極的に努めて欲しい。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の訪問時などの談話のなかで、日々の状態や変化を報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>全体の家族会議は、1か月に1回、利用者と共に昼食を食べながら行う等、人間関係を大切にされている。また、そこで得られた意見等は運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>最近、ほとんど同一法人内の異動はなく、利用者も安定している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は研修会に参加できるが、他の職員も極力参加して意見交換が望まれるので、今後の工夫に期待したい。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同じ法人内の意見交換会は行われている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同じ法人内の特別養護老人ホームやデイサービスの利用者の家族、知人の方々と、ホームの行事等に参加しながら、徐々にホームの生活に慣れるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に食事をしたり、テレビを観たり、雑談のなかから家庭的な雰囲気を作り、レクリエーションや各種の作業を通して、支えあいの関係を構築している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の調査において、生活歴や日常生活の状況、また、家族も含めた希望や意向を把握している。ホームに慣れてくると、家庭に一時帰宅してもホームに帰る希望が強く、ホームが落ち着く場所となっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意向、ケアマネージャーの観察等を総合的に判断して、6か月ごと、または、緊急事態には3か月で見直しを行っている。日常生活での健康状態・食事・睡眠状態から、ケアプランに活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は6か月ごとにケアプランを作成している。また、状況変化に応じて、新たにケアプランを作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	生活相談員も交え、カンファレンスを行い、家族や本人の暮らしに必要な支援を、柔軟に行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期健診と突発的な症状の場合には、希望のかかりつけの病院や協力病院に受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、本人や家族等とよく話し合い、カンファレンスを行い、方向性を決めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ時の声かけやプライバシーを損ねないように、職員一同が対応の徹底に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、いつも利用者の立場に立って、規制しない快適な生活が送れるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は外部注文しているが、農園で採取された大根・玉ねぎ・ジャガイモ・トマト等の野菜を使い、利用者と職員が一丸となって、楽しく準備や片づけなどに取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は夜間入浴希望者がいないので、昼間3時頃から入浴している。また、体調不良などは、事前のバイタルチェックで状態を把握しながら、実施している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の能力に応じて、洗濯物干し、洗濯たため、食後のあと片づけ、園芸、清掃など、楽しさの中で役割分担している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花菖蒲見学・温泉・劇団の観劇・ひな祭り見学・神社参拝・水族館など、全員一緒に外出し、回数も季節に応じて支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の前と裏は急な坂で危険なため、常に職員一同で注意し、入口はインターホンにセンサーを付けて、開閉可能な工夫がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルがあるが、個々のポイントを掲示する等、緊急対応に向けての周知徹底に工夫が望まれる。	○	マニュアルの重点項目の抜粋を掲示する等、緊急時に活かす工夫をし、職員に日頃から周知しておくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食材購入時に献立が作成されており、栄養管理のもとで調理が工夫されている。また、利用者個々の居室にポットを置いたり、食事の際に水分補給を行うなど、心配りがうかがえる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には多くの鉢物が置かれ、共用空間には季節感のある作品が飾られており、明るい雰囲気は漂っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた物を持ち込み、本人の居室が個性に合った居心地のよい居室となっている。		